

青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

官僚より企業人に／野武士の気概継ぐ

戦後間もない時期に、県立横須賀高校（以下、横高）で学び、企業人として日本経済の浮沈を経験した卒業生も多い。

日本有数の医療機器メーカー、テルモで社長、会長を務めた和地孝（78、1954年卒）は、3期連続赤字で苦しかった



「人はコストでなく資産」と経営の極意を語る和地。戦後の日本経済を支えた一人

横須賀高校 ③

テルモに89年、富士銀行取締役から移った。経営改革に取り組み、10期連続の増益を果たし2013年6月、引退した。

「戦後の影が色濃く残っていた時代を経験した横高生には實実剛健の気風があった」と振り返る。円覚寺の高僧が講演で諸行無常を原子論から説き、東京芸大教授の著名なピアニストが演奏会を開くなど、個性的な授業が多かった。「悪くいうと放りっぱなし。当時は湘南か横高かといわれていたが、湘南と違って官僚になる風土はなかつた」。



横高では剣道部。「實実剛健は当たり前」と坂東武者精神を受け継ぐ池田

た」。洗練された雰囲気を持ち合わせる湘南に対し、旧制横中時代の校歌「坂東武者」に代表されるような野武士の気概があったのだらう。

大戦から帰った先輩から「坂東武者の精神を忘れるな」と言われたのは、東日本大震災で被災した中小企業の融資を担う東

日本大震災事業者再生支援機構社長の池田憲人（66、66年卒）。暑い夏、足元に水を入れたバケツを置き、足を入れて授業を受けた。横浜銀行代表取締役を経て2003年、破綻した足利銀行に頭取として移って経営を立て直し、今は震災後の企業復興に力を尽くす。「教科書の発想ではだめ。人が行動できないことに挑戦する。原点は卒にはめられず自由だった横高時代」と懐かしむ。

池田と浦賀中学、横高と同級生だったカルピス社長の山田藤男（66、66年卒）は、クラブには入らず、授業が終われば海に遊びに行っていた。担任は軍隊帰りながら、「自主性を重んじ



横高恒例の行事クロスカント
リーは「苦しかった」と山田



てくれた」。横高は3年間クラス替えがない。体育祭ではクラスは緑色のカラー。仮装行列では体中に緑のペンキを塗り、腰みのと皿をつけて踊り優勝した。「横高の財産は友人と自立自主の価値観を与えてくれたこと」

元日本商工会議所副会頭で高梨乳業会長の高梨昌芳（81、51年卒）は、高梨乳業のトップとして戦後に良質な牛乳の普及に努め、日本商工会議所副会頭と

して日本経済を牽引した。長男高梨信芳（55、77年卒）が社長として後を受け継ぐ。

電通会長の高嶋達佳（70、62年卒）とNEC会長矢野薫（70、62年卒）も同級生。戦中世代の2人は、バブル崩壊後、広告戦略と最新ITを武器に日本経済をリードしている。

旧制横須賀中校歌の「坂東武者」は1929（昭和4）年に作られた。「坂東武者の名を留めし、衣笠城址西にして」で始まり、4番まである。今は横高応援歌として歌い継がれる。横高の情報は「kanagawa@asahi.com」の「青春スクロール横須賀係」へ。